



どうにかする力

泗水小学校だより
R4. 9. 29(木)
No. 24
校長 工藤竜一

【校訓】 なかよく つよく しんけんに

【学校教育目標】 自立する泗水っ子の育成

～「生きる力＝どうにかする力」を育む教育活動を通して～

「泗水っ子にもっともっと本に親しんでほしい！」

学校だより No. 6 で、今年度から本校に司書として勤務されている福吉里加子先生をご紹介しました。「泗水っ子にもっともっと本に親しみ、豊かな知識と感性を育ててほしい。」という願いのもと、本校図書室を潤いのある魅力ある空間へと生まれ変わらせてくださっています。

先日、昼休みに図書室を訪れました。カウンター付近では、借りていた本の返却や貸し出しの手続きをする子どもたちでにぎわっていました。図書室の中のほうへ進むと、季節や授業の進度に合わせた本を紹介するコーナーが設けられています。さらに、調べ学習に必要な本が集められたコーナー、料理の本のコーナー、こわい話のコーナーなどがあり、来室する子どもたちの興味や目的に合わせて本を選ぶように工夫されています。また、読みたい本が見つかったら、すぐにその場で読むことができるように机やイスも配置されています。

保護者や地域の皆さんも、本校へお越しの際は、本館3階の図書室をのぞかれてみませんか？お待ちしております。



教科学習に使う図書コーナー 「こわい話」のコーナーも…



図書室に入ると新書や季節の本が並んでいます！



6年生の修学旅行の事前学習用の図書のコーナー



調べ学習用の図書をそろえた「ダーウィン・ルーム」

明るい挨拶がとびかう泗水小に！～児童会の取組～

9月22日（木）のオンラインによる泗水っ子集会では、児童会の呼びかけで各クラスの挨拶の状況を振り返り、今後の取組を伝え合いました。各クラスの課題や学年の発達段階に応じて、「自分から進んで」「立ち止まって笑顔で」「明るい元気な声で」などの取組を発表しました。その後、教室や廊下で子どもたちに出会うと早速実践してくれており、とてもうれしく思いました。児童会が中心になり、よりよい学校を目指して、くらしを向上させる実践活動に取り組むことは、「自立する泗水っ子」という学校教育目標の達成につながるものです。今後の実践の広がりが楽しみです。



☆校長室から独り言21☆

「あなたが絶対に知るべき唯一のものとは、図書館の場所である。」（アインシュタイン）②

私の小学生時代の読書といえば、何と言っても、江戸川乱歩の「少年探偵団シリーズ」でした。4年生の頃に、「この本面白いよ」と友達に紹介されたのをきっかけに読み始めました。明智小五郎探偵と小林少年率いる少年探偵団が、怪人二十面相と正々堂々と推理で勝負する展開が面白くて、夢中になって読みました。5年生から6年生までの2年間で、ポプラ社の江戸川乱歩全集全46巻を完読しました。

初めは、友達に本を借りたり、親に買ってもらったりして読んでいましたが、全46巻を手に入れることはできません。図書室にも数冊しか置いてありませんでした。それで、司書の先生に全46巻を揃えてくださいと懇願し、6年生のときに揃えてくださいました。

「少年探偵団シリーズ」がきっかけで毎日のように図書室に通っているうちに、その他の本も借りて読みました。推理小説つながりでコナン・ドイルのシャーロック・ホームズシリーズはもちろん、図書室にあった日本文学の名作シリーズの本もたくさん読みました。その頃、私の家では、特に秋から冬にかけての夜は、父も母もこたつで読書をする習慣がありました。ある時間はテレビを消して、家族みんなでこたつに入って静かに読書。そのおかげで、私の読書習慣は自然についたのだと思います。